



常任委員会の活動 総務文教常任委員会

平成25年7月23日、24日に先進地研修を行いました。

埼玉県宮代町 公共施設マネージメント計画について

宮代町は面積15・95km²、人口3万3千人余と阿賀野市より1万人程少ないですが、当市と違い人口の減少は微減です。
公共施設再配置に向けた取り組みについて、平成23年11月に策定した宮代町の公共施設マネージメント計画（「宮代スタイル」）による公共施設再配置の提案に基づき、現状と今後について説明を受けました。

「公共施設マネージメント」と一口で言っても、町の経常収支、財政運営がかなり厳しいので、住民に理解いただくには、何回も何十回も説明をする。利用者になぜこうなったかきちんと

と説明することが大事だそうです。

また、公共施設再編は常に総合計画に位置付け、5年毎の具体的な実行計画により作業を進めながら、進捗状況を半年おきに公表し、市民の声を反映させ、長期的な視点で再編を進めているとのことでした。

「所変われば……」という言葉がありますが、いろいろな問題を抱えていて、当市とは違った面も多いですが、木造の役場庁舎に代表されるように、まちづくりの中心に農のあるまちづくりということで、農業と緑を大切にしながらまちづくりを進めていました。

茨城県守谷市 市民協働推進の取り組みについて

守谷市は面積35・63km²、人口6万4千人余で、少なくともあと10年間は、住民は増えるとのこと。

市民協働のまちづくり推進のため、平成14年12月、地域住民のボランティア活動の総合的な活動拠点「守谷市民活動支援センター」を設置し、福祉・環境・社会教育・芸術・文化・スポーツ・災害など様々な分野のボランティア活動を行う87団体が登録し、市民公益活動を活発に行っています。また、平成24年10月に協働の担い手育成のために開校した「もりや市民大学」も今後

あります。

自治会加入率の減少傾向、新設の9自治会のうち5自治会がマンション単位、地域の連帯感が薄れ、地域コミュニティの希薄化が進んでいる現状で、今後、子育て支援、自警団、自主防災組織の結成、高齢者や障害者を見守り支援する仕組みなど、自主的に取り組めるシステムづくりが課題となっています。

これらのことは、人口激減という当市とは条件の違いや現れ方の違いはあったとしても、共通することや重なる部分もあり、「住む人が街をつくる」という言葉にどう近づくか、当市においても課題であると思います。

平成25年8月7日に所管事務調査を行いました。

水原中学校改築工事の進捗状況について

水原中学校改築工事の進捗状況は7月31日現在の時点で、校舎は建築工事59%・電気設備工事7%・機械設備工事11%、屋体は建築工事68%・電気設備工事28%・機械設備工事35%でした。工事半ばではありませんが、労働力不足といわ

れている中でケガ等には十分留意し、労働災害、事故等ないように安全に工事を進めていただくことを願います。



屋体棟内部の様子

閉会中の継続調査事項（12月定例会まで）

(1) 笹神中学校耐震補強・大規模改造工事の進捗状況について

(2) 支所の現状について

常任委員会の活動 社会厚生常任委員会

平成25年7月12日に所管事務調査を行いました。

環境センターの現状と課題について

問題点の第1は、燃焼ガスが外に出ていることが原因で、基準値を超えているダイオキシンがプラント内に発生しているという状況、第2は、稼動してから20年を経過し能力が低下してきており、燃焼効率が落ちている現状です。ガス漏れの原因、災害時を想定した最終処分場の

容量の測定の必要性、焼却炉のメーカーの保証などの質疑が行われました。早期に修繕を行う一刻も早くダイオキシンが発生しないようにすること。最終処分場の実際の残容量を明確にして処分計画を立てる。広域化に対する方針は早期に決定することを要望します。

し尿収集業務の現状と課題について

平成24年9月定例会で「下水道整備に伴う一般廃棄物収集運搬業務減少に対する対策救済についての請願」採択を受け、市は「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」に基づき、業者と協議を行ってきました。市の合理化事業計画（案）については、現在代替業務など検討中で、業者からの具

体的な補償要望、業務維持のための車両維持費等の考え方、下水道事業の進捗に伴うし尿処理の見直し、体制の明確化を求める質疑・意見などが出され、委員会としては、早く具体的な合理化事業計画（案）を策定し、業者と協議すべきであるとの結論でした。

平成25年8月9日に所管事務調査を行いました。

障害者グループホーム「パル」の運営状況について

障害者グループホーム「パル」は地元自治会の理解のもと、物見山町地内の旧教職員住宅を活用して市が計画を立案し、公募により社会福祉法人阿賀北総合福祉協会が運営を担うことになり平成25年4月1日に開所しました。1階「パルゆき」（定員4名）、2階「パルのみやま」（定員4名）で居室は明るく、スプリンクラー等非常災害時の対応がなされており利用者の安全安心が図られていました。調査時点では4名

の入居でした。施設の運営の職員配置は、世話人（生活や健康面での支援）が平日・休日1名ずつ、夜間支援員は1名、サービス管理者1名、管理者1名とのことでした。

吉田東伍記念博物館の現地調査

超人学者吉田東伍を広く知ってもらうためにイベント等様々な企画を行っているが、入館者は減少傾向にあります。一般入館者のほか、学校へのPRが必要と考えているが、来館は安田

地区の学校が主となっています。委員からは、市内全域の学校での学びの場となるように学校教育課や生涯学習課から積極的なPRをしてほしいなどの意見が出されました。



障害者グループホーム「パル」

閉会中の継続調査事項（12月定例会まで）

(1) 環境センターの現状について
(2) 特別養護老人ホーム整備計画について

(3) 視察研修について